Kathleen M. Dudzinski, Justin D. Gregg, Robin D. Paulos, Stan A. Kuczaj. 2010.

A comparison of pectoral fin contact behaviour for three distinct dolphin populations.

Behavioural Processes 84(2): 559–567.

日本語タイトル

3 つの異なるイルカ個体群間での胸ビレ接触行動の比較

要旨日本語訳

胸ビレに関する触覚的交流は、様々な種類のイルカで報告されている。いくつかの機能（例えば、社会的、衛生的な機能）は、いつ、どうしてイルカが胸ビレの接触をかわすのかについての、考えられる解釈として示されてきた。本研究は、3 つの異なるイルカ個体群におけるイルカのペアの胸ビレの接触について比較した。すなわち、バハマのタイセイヨウマダライルカ（*Stenella frontalis*）と日本の御蔵島周辺のミナミハンドウイルカ（*Tursiops aduncus*）の野生のイルカ 2 グループと、ロアタンにある海洋科学機関の Anthony's Key Resort の飼育下のハンドウイルカ（*Tursiops truncatus*）1 グループである。胸ビレ接触の割合、どちらのイルカが接触を開始したか、姿勢の嗜好性、同性とのラビングを好むといった多くの共通点が、飼育下と野生下のグループの間で観察された。しかし、野生下とは異なり、飼育下のイルカのグループは、ペッティングとラビングの割合が等しく、メスはオスと接触しようとする傾向が強く、オスはメスより頻繁に様々なラビングの役割を担い、新生児とコドモが胸ビレ接触交流により多く関与することが示唆された。これらの結果は、胸ビレ接触行動のいくつかの側面は多くのイルカの種で共通かもしれないが、他の側面は、種特有なものであったり、異なる環境的・社会的条件の結果であったりする可能性を示している。

訳者: 笠貫ゆりあ　翻訳日: 2012 年 5 月 22 日

※日本語要旨は第一著者の承諾の元に作成しました。訳者が第一著者と同一でない場合、訳文に責任は持てませんので、正確な情報がご入り用の場合は、原文をご覧ください。